

2016年度多文化関係学会 第2回理事会
議事録

日時：2016年8月7日（日）12：00－15：00

場所：順天堂大学 第2教育棟 607教室

出席：石黒、笠原、田中、出口、中川、原、山本、渋谷

委任状出席：奥西、長谷川、湊、守崎、山田

報告事項

1.事務局

資料にもとづき、会員数動向および J-Stage による学会誌電子化データ移行・利用手続きの進捗状況が報告された。また、インターブックスとの「多文化関係学」保管・販売に関する覚書を取り交わす旨の説明があった。

2.各委員会報告

○地区研究会

関西：第1回は7月29日（金）に開催。平日夜だったため、参加者は多くはなかったが充実した会となった。次回は10月16日に開催予定。

関東：第1回は5月21日に特定課題研究グループの報告（参加者15名）。次回については検討中。

○編集：第2回編集委員会を8月10日に開催。作業スケジュールにより、年次大会後に第3回編集委員会を開催する予定。

○ウェブ、広報：現行HPがすでに公開後10年を越えているので、見直すべきか。→以下、協議事項へ

3.年次大会について

○2016佐賀大会：8月6日現在、事前申し込み61名、発表者38名、プレカンファレンス申し込み14名。簡易プログラムは8月18日以降発送予定。

○2017北海道大会：基調講演者を確定。大会開催時は周辺でホテルを確保するのが難しい時期のため、事前広報する必要があることが説明された。

○非会員の大会発表申し込みについては、ラウンドテーブルと一般の発表は区別する。ラウンドテーブルは従来通り、会員が推薦者となれば許可する。一般の発表は基本的に会員のみ応募可能とするが、入会手続きが間に合わない場合は仮登録等により個別に対応する。

協議事項

1.ミルトン・ベネット氏の講演に関して

ベネット氏の来日予定にあわせて研究会等の開催をする提案がなされた。

協議の結果、関東地区研究会が中心となり企画を立てることとなった。滞在や移動に関わる費用については、非会員にもオープンにし参加費を集める等について可能性を模索することとなった。

2.今後の学会について

○若手研究者の会

日本学術振興会からの若手研究者ネットワークへの登録打診に呼応し、本学会も今後、若手の会を作るべきかという点について協議を行った。他学会の事例も参考にしつつ、過去の石井賞受賞者に若手研究者交流ネットワーク構築を依頼することとした。

○理事選挙

今年度実施する理事選挙について、今年度に任期満了（次期再任不可）の理事が6名、再任可能の理事が7名であることを確認し、速やかに選挙の準備を進める旨合意された。

○税金の処理について

今後、学会でも税金処理の難しさが増すことが予想されるため、外部に処理を依頼する可能性について理解を共有した。

3.その他

○特定課題研究グループのあり方について議論し、そのあり方について今後も適宜調整していくことが提案され、了承された。

○学会 HP の見直しは、相当の費用が想定されるため、来年度実施のプロジェクトとして検討を始める。今年度中に更新時に変更が必要な点の再点検を行う。また、同時に会員情報アップデートの喚起方法についても検討する。

○会費未納が3年続いた会員については、退会扱いとし、会員登録を抹消することとする。

次回：2016年10月2日12時30分から開催予定